【卒業生寄稿】

中瀬　亮輔
独立行政法人国際協力機構（JICA）
（2006 年度卒業）

ポルトガル語学科の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。
そして在学生のみなさんも、新たな 1 年の始まりに期待が膨らんでいることと思います。

私は現在、日本政府による途上国支援を担う援助機関である JICA の一員として、2011 年からモザンビークに駐在しています。

モザンビークは、豊富な天然資源を原動力に近年急速な発展を遂げており、大きな注目を浴びている国の一つです。特に、物流の窓口となる良港を有するモザンビーク北部の開発は、モザンビークのみならず周辺の内陸国を含めた南部アフリカ全体の開発に大きく貢献することが期待されています。

JICA は、この北部を中心として、モザンビーク政府が実施する開発事業を支援しており、私はその中で、衛星を活用した森林情報の整備、首都における廃棄物管理事業の改善、農村地域の給水事業、頻発する自然災害に向けた防災事業等の環境分野の事業にかかわってきました。そして現在は、日本・ブラジル・モザンビークの三ヶ国で行っている北部地域一帯の農業開発に携わっています。

現在、このようなポルトガル語圏での仕事に関わっていますが、その元をたどっていくと、やはりポルトガル語との出会いが、今につながっているような気がしています。

（きっと皆さんの中にも何人かいるであろう、と想像しつつ）偶然入学したのがこの学科であり、ポルトガル語への興味はほぼ「ゼロ」からのスタートでしたが、徐々にブラジルという国に興味をもち、ブラジルでの生活を通じて、世界や途上国への関心が広がったように思います。そして幸いにも現在、途上国で、ポルトガル語を用い、ブラジルとも関わる仕事をさせていただく機会をいただいています。

この学科の魅力は、ポルトガル語という「入り口」から広がる世界の面白さにあり、ポルトガル語圏の国々の社会・文化・歴史、人との出会い、そしてそれらとの出会いが更に多くの人、世界とのつながりを運んできてくれるように思います。

そして何よりそれ以上に、希少なポルトガル語という同じ入り口を選んだ個性的で魅力に溢れているであろう、みなさんの仲間は、さらに大きな刺激を呼び込んでくれるのではないかと思います。

このポルトガル語学科との出会いが、充実した学生生活と、魅力的な人たち、魅力的な世界につながることを願い、みなさんへのエールとかえさせていただきます。

Boa Sorte!